

前橋 汀子

バッハの神髄に迫る圧巻のソロ!
小編成アンサンブルと織りなす「冬」の響き!
フルオーケストラと奏でる情熱の響き!

ヴァイオリン・ スペシャル・コンサート

〔ヴァイオリン〕前橋汀子

〔指揮&チェンバロ〕ヴァハン・マルディロシアン

〔管弦楽〕日本センチュリー交響楽団

© JL-Bongrand

© 篠山紀信

J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 BWV1004 より《シャコンヌ》

ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲《四季》より「冬」 op.8-4

ベートーヴェン：ロマンス 第2番 ヘ長調 op.50

サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 op. 28

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

サラサーテ：ツイゴイネルワイゼン op.20

2024 **1.14** (日) 14:00開演 (13:00開場)
S: 7,700円 A: 6,600円 (税込)

ザ・シンフォニーホール

主催：ザ・シンフォニーホール

〈ご予約・お問合せ〉ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonihall.jp>

プレイガイド

■E+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonihall> (パソコン・携帯) ■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonihall> [Lコード: 54160]
■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonihall/> [Pコード: 244-926]

*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。

Teika Maehashi

前橋汀子 ヴァイオリン・スペシャル・コンサート

大輪の薔薇。名実ともに日本を代表する奏者として圧倒的な存在感を放つヴァイオリンの前橋汀子。その演奏は、美しく咲き誇る薔薇を思い出さずにはいられない。国際コンクール入賞の草分け世代として世界を舞台に活躍してきた前橋は、今なお音楽に全身全霊を捧げ、自身の至芸を磨き上げている。スケールの大きい華のある演奏に多くのファンが魅了されてきたが、近年はクラシック音楽の素晴らしさを伝える活動にも尽力。ザ・シンフォニーホールでのリサイタルは、無伴奏、弦楽合奏、オーケストラとの共演という画期的なプログラムで、ヴァイオリンの珠玉の名曲を披露する。希代の名手の前橋とともに、音楽の喜びを分かち合う特別な時間になることまちがいない。

文・伊藤制子

[ヴァイオリン] 前橋汀子 Teiko Maehashi, Violin

2022年に演奏活動60周年を迎えた前橋汀子は、日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味に溢れる演奏で、多くの聴衆を魅了してやまない。17歳で旧ソ連国立レニングラード音楽院（現サンクトペテルブルク音楽院）日本人初の留学生に選ばれ、ミハイル・ヴァイマンのもとで学んだ。その後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院でロバート・マン、ドロシー・ディレイ、スイスでヨーゼフ・シゲティ、ナタン・ミルシテインの薫陶を受けた。

これまでにベルリン・フィル、ロイヤル・フィル、フランス国立管などの名楽団、メータ、ロストロポーヴィチ、小澤征爾など世界の一流で活躍するアーティストとの共演を重ねている。

近年、小品を中心とした親しみやすいプログラムによるリサイタルを全国各地で展開。一方、J.S.バッハの「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ」全曲演奏会、ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会、そして2014年からはチェロ：原田禎夫、ヴァイオリン：久保田巧、ヴィオラ：川本嘉子と共にベートーヴェン：弦楽四重奏曲の演奏会を行うなど、室内楽にも意欲的に取り組んでいる。

最新CDの秋山和慶指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢との『ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲ニ長調、ロマンス第2番へ長調』が2022年6月に発売。著書「私のヴァイオリン 前橋汀子回想録」が早川書房より、最新刊「ヴァイオリニストの第五楽章」が日本経済新聞出版より出版されている。

2004年日本芸術院賞、2007年第37回エクソンモービル（現・ENEOS音楽賞）音楽賞洋楽部門本賞受賞。2011年春の紫綬褒章、2017年春の旭日小綬章を受章。

使用楽器は1736年製作のデル・ジェス・ガールネリウス。

© 篠山紀信

[指揮&チェンバロ] ヴァハン・マルディロシアン Vahan Mardirossian, Conductor & Cembalist

1975年アルメニア出身。1993年にパリ音楽院に入学しジャック・ルヴィエに学ぶ。ピアノと室内楽で優秀な成績を修めて首席で卒業し、フランスを始めヨーロッパ各国や北米、アジア各国でリサイタル活動を行った他、イヴリー・ギトリス、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ等世界的な演奏家と共演を重ねてきた。現代音楽にも造詣が深く、作曲家エリック・タンギーより献呈を受けたピアノ・ソナタ第2番の初演に際してはル・モンド紙が「驚くべきピアニスト!」の見出しで半ページに渡って称賛された。

2006年にニューヨークの指揮者セミナーに招かれクルト・マズアに学んで以来、指揮者としても活動。現在はベルギーのワロニー王立室内管弦楽団の音楽監督と中国の香港市室内管弦楽団の首席指揮者を務めている。他、フランス国立管弦楽団やアーヘン交響楽団、ブラハ放送交響楽団、ロシア国立交響楽団などに客演。日本では2014年に東京フィルハーモニー交響楽団に客演して以来、NHK 交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団などに客演し、いずれも高い評価を得た。ピアノと指揮を両方務める弾き振りも得意とし、中でも他に類を見ないグリーグのピアノ協奏曲の演奏は話題を集めた。



[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団 Japan Century Symphony Orchestra

1989年に活動を開始し、2019年に楽団創立30周年を迎えた大阪府・豊中市を拠点とするオーケストラ。現在、飯森範親が首席指揮者、秋山和慶がミュージックアドバイザー、久石譲が首席客演指揮者を務める。ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズを展開する。教育プログラムや地域連携事業にも力を入れている。

オフィシャル・ホームページ <https://www.century-orchestra.jp/>



© Masaharu Eguchi